

地域の「やってみたい」を応援する情報誌

# みんな



## 「捨てない暮らし」のその先に

カーボンニュートラルの実現に向け、国やまち、家庭で生活スタイルの転換が急がれています。

「捨てない暮らし」は、そのための有用な手段の一つです。四街道には、そんな暮らしの先を見据えて活動をする皆さんがいます。

# 「捨てる」をやめる



## 生活スタイルの転換を

地球温暖化に伴う気候変動が私たちの生活を脅かしています。「大量生産・大量消費による廃棄」という長い間の生活スタイルからの転換が求められているといえます。

昨年10月、政府は※「カーボンニュートラル」を宣言しました。それより前の同年7月に四街道市は「ゼロカーボンシティ宣言」を表明。市の一般ゴミの焼却灰を受け入れている北茨城市と関東近県の自治体等で構成する廃棄物と環境を考える協議会と目標を共にしました。

CO2削減に向けて、行政でもクリーンセンターで焼却する一般ごみの削減計画や既存住宅への太陽光発電装置への補助など具体的な取り組みがスタートしています。

私たちができることは、節電・節水や分別、そして「ゴミを捨てない」ことなどではないでしょうか。

平成30年、市では四街道高校料理研究部とのコラボで「食品ロスを減らそうプロジェクト」をスタート。うどんの切れ端を使ったピザなどを

開発、イベントで販売し話題となりました。

## 壊れたら、直して使おう

平成18年発足、現在約20名のドクターが在籍する「四街道おもちゃ病院」。福祉センターなど市内3施設で持ち込まれたおもちゃの修理と児童センターや学童ルームの工作支援を行います。コロナ禍以前は年間約400件の修理を受けてきました。

青いのぼり旗を掲げた日が開院日。院内ではエプロン掛けのドクター一人一人が道具箱を携え、カルテならぬ修理依頼書を脇に楽しそうに預かったおもちゃをよみがえらせていきます。

小学校低学年までのおもちゃの修理依頼が大半ですが、以前には螺鈿らでんつくりのオルゴールが持ち込まれ、ドクターの知識や技術を総結集して修理に当たったことも。「何度も修

理に出されるおもちゃは、それだけ大事にされていると思うとうれしいですね」と代表の矢間義昭やまのよしまささん。物の大切さを伝えることはもちろん、同時にどうして動くのか音が出るのかといったおもちゃの仕組みを知り、子どもたちの科学的好奇心を醸成させることもドクターの使命と話します。「おもちゃが壊れたら、おじさんたちと一緒に分解して直してみよう」と声掛けするのです。

「捨てない・大切にすることだけでなく、おもちゃを通して「子どもの未来を育む」。おもちゃ病院は、そんな役割も担っています。

※カーボンニュートラル  
地球温暖化を防ぐために温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすること



わろうべの里で開設するおもちゃ病院のドクターの皆さん

### 連絡先

●四街道おもちゃ病院

<http://toydoctor123.web.fc2.com/>

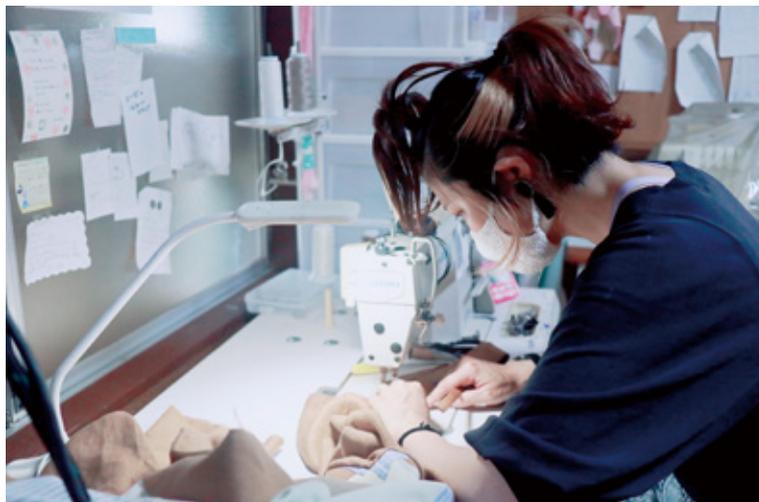
# お洋服を通して 人の役に立つ

## 連絡先

●ひみつのおしゃれ工房

<https://www.osharekoubou.com/>

<https://www.facebook.com/himiosha/>



工房の愛用のミシンで商品を作る佐々木さん

地球にも社会にも優しいアパレル生産の形を。大日の「ひみつのおしゃれ工房」はそんな思いが溢れる佐々木和枝さんの古着とリメイク商品のお店です。

小学2年生で針を持ち、作ることの楽しさに目覚めた佐々木さん。好きなことを極めることが人の役に立つことと考え、服飾専門学校へ。そして舞台衣装を学びにハリウッドに留学。しかし現地で大勢のホームレスの姿を目の当たりにし、地に足のついていない自分の夢に失望し帰国。「普通の人の役に立ちたい」と決意しました。

その後就職先で赴いた海外では、数々のアパレル業界の課題を見聞しました。上海の工場で過酷な労働条件下で生産された洋服とそれを日本人が粗末に消費する姿。「捨てられるものを作る」無力感。リユース衣類の終着点といわれるパキスタンでは、児童強制労働の実態や廃棄された衣類を焼却する炎も衝撃的でした。一方で佐々木さんは、子どもの頃所属していた団体での温かな交流が忘れられず「地元のコミュニティを

## 未来を想像し、暮らしを変えよう

毎日どこかで目にする環境問題。私たちの生活と密接に関係しながら地球規模でつながり、一つの行動ですべてが解決するわけではありません。

その中で今号は「捨てない暮らし」にスポットを当て取材を進めました。「捨てること」への意識はさまざまです。面倒だと思ふ人、誰かが問題は解決してくれるだろうと思ふ人がいるかもしれませんが、しかし誰も捨てることへの後ろめたさは、少なからず感じているのではないのでしょうか。

ご紹介した皆さんは、物を大切に使う、「捨てない」というシンプルな活動の中で、地域の雇用を生み出し、子どもたちの好奇心を育てています。捨てない物の質量としてはわずかでも、その活動の中で物を大切に、互いのことを思いやる心豊かな生活のあり方に気付かせてくれました。

捨てない暮らし。その一歩先に待っていること、実現できることを想像しながら、暮らしを変えてみませんか。

大切に、日々の暮らしを感じながら好きな仕事を続けていきたい」と四街道での就業の形を温めてきました。3年前にスタートした工房で、佐々木さんの思いを支えるのが「内職さん」です。生地のカットやボタン付け、商品の袋詰めなどシンプルで繰り返しが必要な工程を担当します。現在、地域で子育てや介護、障害などさまざまな理由により外で働くことが難しい9名が登録。「一昨年私も思わぬ大病を患い、働けない人の気持ちがよく分かります。できるこ



古着リメイク布を縫い合わせたおしゃれな靴下

とをできる分だけ。みんなでシェアしながら進めていきたいです」。グローバルな活動を経て、佐々木さんの夢や目標、学びは「捨てない暮らし」と「地域の雇用」という形で開花し、さらに広がっています。

## ピックアップ

### 第18回福祉施設紹介・販売フェア 「大きなテーブル」



6月12日に行なわれた「大きなテーブル」は感染症予防対策のため18回目にして初めて屋外で開催。梅雨入りが遅れて、天気にも恵まれた一日となりました。

福祉・協賛団体の計14団体が出展し、新鮮野菜、焼き菓子、布小物、木工製品などたくさんの商品が並びました。それらの商品には、福祉施設の利用者さんと施設スタッフの試行錯誤、売れる商品にするための努力や四街道オリジナルを目指す想いが込められています。「福祉だから、障害者だから...ではなく、商品

のファンになってほしい」。この想いをお客さんに伝えるために工夫を凝らしたポップ、パネル、陳列レイアウトなど、どれも見応えがありました。

大きなテーブルは、団体や事業者同士のつながりをつくることを目指しています。また、商品が出展団体と来場者を結び、温かなコミュニケーションの場にもなっています。商品を買うことが障害のある人の就労、自立へとつながります。福祉施設の商品を見かけたら、ぜひ手に取ってみてください。

## ピックアップ

### 第9回子ども支援団体交流会・ 円卓会議 「コロナ禍での子ども達、 乳幼児親子の様子」



7月9日、子どもに関わる団体や子どもの支援活動に関心のある23名が参加して円卓会議と交流会を開催しました。

円卓会議では、市教育委員会指導課から「小中学生の変化」について、市健康増進課から「乳幼児親子の変化」についてお話を伺いました。子どもたちは新しい生活様式に慣れ、学校は工夫しながら行事を実施。保健センターへは乳幼児相談が増加しました。「子どもサポートプロジェクト」では、大人の考えだけではなく子どもたちの声を聴こうと、アンケ

ートを実施。外出を控えていることや、生活上の制限でストレスを感じていることが報告されました。

交流会では小グループに分れて情報交換を行い、コロナ禍でもできる範囲で活動を継続している皆さんからのお話に、心強いものを感じました。また、「こんな時だからこそ子どもたちがいつでも行ける居場所が開いているのいいね」「団体に横のつながりがあったらいいね」という声もあり、新たな参加者とのつながりに期待が持てる会となりました。

## お知らせ

### 「助成金活用セミナー」 地域に活動をつくりだす



各種助成金の情報を共有し、活用するきっかけづくりと、地域づくり活動を行なう団体が必要な資金を調達し、新たな活動をつくりだすために学び合います。

- ① 9月7日(火) 13:30-16:00 助成金活用の事例報告
  - ・事例報告(1) 四街道みらい会 「旭ヶ丘子ども食堂」 コラボ四街道採択事業
  - ・事例報告(2) NPO法人ワーカーズコレクティブういず  
「キッチンカーでGO」 休眠預金活用事業
  - ・「コラボ四街道」制度説明と、その他助成金制度の情報提供
- ② 10月5日(火) 13:30-16:00 一歩踏み出すために事業計画を立てる
  - ・申請書作成に必要な事業計画を作成
- ③ 個別相談 随時

会場：①文化センター 301 ②文化センター 203 ③みんなで地域づくりセンター  
定員：①②は各回20名

参加費：無料

対象：市民活動、地域づくりに関心のある方

※申し込み方法など詳細はセンターホームページ・Facebookをご覧ください。

## みんなで29号

表紙の写真：ひみつのおしゃれ工房代表の佐々木さん（中央）と佐々木さんを支える内職の皆さん

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター（四街道市政推進課分室）

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター1階

開館日時：火-金および第1・3土 9:00-17:00

（休館は日・月・祝日と第1・3以外の土および年末年始）

電話：043(304)7065 メール：info@minnade.org

発行日：令和3年9月1日 発行部数：2,000部

ホームページ

Facebook

